

**一般社団法人 日本脊椎脊髄病学会**  
**平成 28 年度 第 5 回プロジェクト委員会**  
**議事録**

日 時 : 平成 29 年 1 月 19 日 (木) 午後 1 時 15 分 ~ 2 時 50 分  
場 所 : 神戸ポートピホテル南館 5F 552・554  
(第 29 回日本整形外科学会専門医試験会場)

出席者 : 山下 敏彦 (担当理事)、川上 守 (委員長)、松山 幸弘、波呂 浩孝、  
山田 宏、宮腰 尚久、西田 康太郎、村上 英樹、今釜 史郎、海渡 貴司、井上 玄  
(以上委員)、持田 讓治、田口 敏彦、新谷 歩、加葉田 大志朗 (以上アドバイザー) 計 15 名  
欠席者 : 山崎 正志 (委員) 計 1 名

報告事項

- 海渡委員より プロジェクト「慢性腰痛症に対する薬物療法の臨床経済研究」の進捗状況について説明があった。資料郵送状況は登録期から第 3 期までが 94.3%、登録期から第 6 期までが 76.5%。現在、回収されたデータの間違いの修正が最終段階。最終解析に使用する 569 症例の患者背景の提示があった。獲得 QALY は中間解析より増加しているが、薬剤費総額の算出が未であり、QALY の算出はできていないがおおよそ 500 万円が上限であるとされる ICER (費用/QALY) の上限は超えないものと考えられるとのこと。

論文化は

- 費用対効果、費用対効用、患者背景、臨床評価など  
患者背景による予後因子 (既往、心理因子、罹病期間、手術歴など)  
各薬剤での治療効果の違い・効果的な薬剤変更パターンの探索  
をまずおこない、診察時間や血液検査のデータ、心理因子評価などは上記検討の結果および解析手法の選択肢を 4 月の JSSR の際に確認してから研究案を募ることとなる。
- 新谷委員より 解析結果のデータを用いて、各薬剤を使用した場合に効果 (EQ-5D) がどのように変化するかなどをグラフを提示して説明があった。また、解析方法について薬剤が何回目に投与された時の変化であるなどの

因子も含めて統計学的処理が可能であること。線形・非線形のモデルを用いた解析が可能であること、治療者の趣向を解析するなど、様々な統計学的アプローチにつき提案があった。

## 議題

### 1. プロジェクト「慢性腰痛症に対する薬物療法の臨床経済研究」について

-次回 JSSR における発表について各委員の意見

- 各薬剤の効果の違いは内容に入れたほうが良いのではないか。
- 用量が十分でない初期段階で、効果がないと判定され、変更されている症例がかなり存在している可能性がある。薬剤そのものの効果がないと判定することに注意が必要。

発表は 1. 松山委員：研究の背景・オーバービュー（10分）  
2. 海渡委員：臨床評価について（25分）  
3. 新谷委員：費用対効果について（25分）  
4. ディスカッション（30分）

上記の進行で行うこととなった。

-論文投稿についての各委員の意見

- 今回のデータを使って、どのような疑問が解決できるのかをある程度委員会としてまとめることが望ましいと思う。
- 費用対効果に関して、他科疾患を含む他の慢性疾患と比較する指標を設けたほうが良いのではないか。
- 先の から の解析の結果に基づき、統計学的手法や解析が可能な項目を 10 個程度あげて頂き、その他、どのようなデータを出したいかのアイデアを、各委員でメール討議するのはどうか。
- 薬剤の選択に関して、処方する医師の裁量となっていることを熟慮する必要がある。
- 新谷アドバイザーより 委員会として、公表する結果に関して優先順位をつけて頂きたい。報告事項の から を優先することとなる。

### 2. 新規プロジェクト研究に関して

川上委員長より、事前アンケートで募集したアイデアに関して説明

-各委員の意見

- 病態が複雑になり、結果がまとまらないことがないように対象の選択に注意が必要。
- 将来的なデータベースの構築も視野に考えた方が良い。
- 薬剤を用いた研究が望ましい

以上の意見を踏まえ、新規プロジェクトを「頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物療法の臨床経済研究」とすることに決定した。まずは田口理事長、山下理事、川上委員長、今釜委員、村上委員の5名で研究の概要を検討することになった。

### 3. 次回開催について

平成 29 年 4 月 14 日 (JSSR 会期中) 朝 札幌で予定

以上

文責：井上 玄